

「母校青山学院を想う

—ニューヨークの地から—

ニューヨーク・ユニオン日本語教会牧師、校友

相良 昌彦



中等部、高等部24期、大学は理工学部物理学科1976年度入学、大学院は1980年度入学生として、12年間を学院で過ごしました。毎日の礼拝での時々の私語や居眠り、何も考えず講堂、チャペルへと向かったことも、大学での礼拝レポートのための出席すらなつかしい思い出です。私はニューヨークに日本人伝道のために遣わされている牧師です。今はわかります。あの礼拝のために、生徒、学生の前に立たれた先生方が、どれほどのエネルギーを注ぎ、祈っておられたかを。そこには生徒、学生一人一人への愛があった、そう言っているのだと思います。先生方に主イエスを通して与えられていた神様の愛が、私たちに分け

られていたのです。

社会に出て思いますが。あの礼拝が学院生活の中になかったら、どのように生きていくのだろうか。学院内の掲示板、案内には、常に礼拝のこと、説教題、聖書の箇所が記されていました。これほど関心を向けられることの少ない案内は他にはないでしょう。時間割やレポート、サークルやイベント、就職の案内には熱い眼差しが注がれます。しかし目には触れても関心を引かない、この掲示に、青山学院の心、学院の在り方が現れているのです。園児、児童、生徒、学生、保護者、教員、職員、招かれる全ての人にとって、学院が何を土台として建てられてきたのかを覚える拠り所なのです。そ

のことを覚えながら卒業していく時、人生のどこかで青山学院の卒業生であることに感謝する時が来るのではないのでしょうか。

主イエスがエリコの近くの路上で1人の目の見えない人に癒しを与えた、救いの物語を覚えます。道はどこかに出かけるために人が歩くところです。しかし彼は物乞いをするために道の端に座っていました。そこが彼のいるべき所、彼の人生がある場所でした。人々にとって日常の光景であり、関心も、生きた関係も生まれえない現実でありました。その彼に主イエスとの出会いが与えられます。主イエスは彼の眼に光を取り戻し、言われます。「行きなさい、あなたの信仰があなたを救った。」道の端に置

かれていた彼が、道を歩む者となりました。すべてを主イエスに委ね、そこに神様の慈しみと憐れみがあることを信じた彼の切なる心を、主は「あなたの信仰」と呼ばれました。彼は主イエスと共に新しい生き方を始めました。彼への癒しは、彼一人のものではなく、これから彼が会う全ての人へと分けられる祝福となりました。

これから迎えようとしているクリスマスは私たちにとつて喜び、感謝、賛美の時です。なぜでしょうか。主イエスが、道の端に座るだけであつた彼に出会つたように、この私たち一人一人に出会うために来られたからです。クリスマスは、神様から離れ、失われていた私たちを取り戻そうとされる神様の御心に満ちています。町々、村々を廻り歩かれた主イエスの歩みは、私たちのための十字架への一歩一歩でした。クリスマスを祝う心は、その主イエスを私たちがお迎えする心です。あの夜、泊るべき場所すら用意されなかつた幼子の主イエスを、私たちは学院の歩みを通してお迎えしようとしています。青山学院のスクール・モットーは「地の塩、世の光」です。塩と光。この世にあつて、日常的に必要な不可欠なそれらの役割を担う存在として用いられる私たちであることを主が教えて下さいます。学院の歩みに連なる私たちが、主イエスが見つめられる人を共に見つめ、主イエスの

歩まれるところへと共に歩み、私たちの姿、在り方を通して良き知らせを運ぶことが出来たら幸いです。主のご降誕を真摯に待ち望みましょう。

私のおりますユニオン日本語教会は、マンハッタンの北、ウエストチェスターに位置しています。礼拝出席は10名前後。小さな群れです。その中に青山学院同窓生が4人も招かれています。それは驚きであり嬉しいことです。場所をお借りしているヒッチコック長老教会の主日の礼拝と時を同じくして、礼拝堂階下で日本語礼拝を守っています。その小部屋の窓は外の通りに開かれ、私たちの賛美、祈りの声、そして御言葉の響きが、外を歩く人へと運ばれます。アメリカの地では異質な日本語ではあつても、そこに礼拝を守る共同体があることが覚えられています。現在コネチカット（グリニッジ、トランブル）に2つの家庭集会があり、その1つから、子供と家族のための集まり（ブリッジポート）も生まれました。聖書の学び会は、教会に、ニュージャージーに（テナフライとバーゲンフィールド）、牧師宅（ブロンクス）にあります。テナフライでの学びは、サマーキャンプの高校生リーダーたちのために生まれました。そのキャンプには毎年、日本基督教団SCF（学生キリスト教友愛会）を通してリーダー派遣の支えをお受けしています。お子さ

んを持つ親のための絵本の会が、1人のアメリカの教会員の奉仕によって続けられています。子供は英語の響きを楽しみ、大人は季節ごとに、文化や伝統を学びます。教会に来ることの出来ない方々への訪問、家の礼拝、聖餐があります。アメリカ文化、その中心であつた教会の信仰を学ぶプログラム、また地域の教会との合同プログラムも続いています。諸集会は、RCA（アメリカ改革派教会）、UMC（合同メソジスト教会）に連なる諸教会、友人たちの祈りに支えられています。青山学院の宗教部長をされていた鈴木有郷牧師が現在おられる日米合同教会（マンハッタン）はその1つです。日本の諸教会、支援会、友人、学院同窓生らの熱い祈りと励まし、慰めが感謝です。

私たちの守る礼拝は日本語です。自分を養つてきた言葉で生ける御言葉に聞き、また自分の言葉での賛美、祈りを通して主なる神様に応答したい。その切なる祈りが、この小さな群れの礼拝を続けさせています。皆さまに覚えていただき、祈りと支援をもって生かされている私たちは幸いな者です。私たちの祈りは、1人でも多くの人に、主イエスの愛をもって届くこと、そして神様が探し求めておられる、その一人一人に仕えることを通して、今ここに神の国の幸いが生きていることを分かち合うことです。